

## 想定外だらけのタイ留学経験 — 乗り越えることの楽しさと喜び

国際コミュニケーション学部  
平田 晶子

### 潮風の漂うキャンパス、プーラパー大学へ

タイへの留学経験は2002年4月から2003年3月までの大学3年次のときである。留学先は、提携校のプーラパー国立大学人文社会学部タイ語学科だった。その名の通り、サンスクリット語で「東方」を意味するプーラパー大学は、タイ王国の東部に位置しており、タイ湾に臨むチョンブリー県にある。大学の正門前の大通りはバーンセーン海岸まで続いていて、夕方になると構内には海から吹く潮風の香りが漂う。

### タイ語での言語学講義

タイの大学が6月に開始することから、4月下旬に渡タイした私は、本格的に授業が開始するまでの5月中にタイ語学科のタイ人教員が用意した1ヶ月半にわたる「タイ語集中レッスン」を受講することになっていた。私は中級レベル以上の英会話教室が提供するようなネイティブスピーカーとの高度な会話練習をさせてもらえる勝手に思い込んでいた。ところが、実際用意されていたのはタイ言語学講義であった。使用した教科書は、タイ人の学生がタイ語の言語学を学ぶ教科書で言語学の概説から音韻論に基づくタイ語の音形や文法構造までを解説する単元で構成されていた。想定外の難解なタイ語の集中レッスンは、平日8時から12時まで4時間続いた。最初はタイ人の先生があまりに早口で何を話しているのか、さっぱり分からず、タイ語を覚えることに必死だった。ひたすら辞書を引いて予習と復習を繰り返す日々。これまで日本で学んでいたタイ語とは違う専門的な学術用語の単語だらけで、徹夜で予習した夜もあった。タイ語の音形の説明になると徐々に講義が面白く

感じた。子音字の両唇音 (m) の説明を受けたとき、タイ人の先生が「世界中の“母 (メー)”という言葉を書き出してみましよう。英語、フランス語、イタリア語、タイ語、中国語…。全て両唇音で始まる音の単語ですね。どれも両唇音でとても発音しやすい音ですね。なんでだと思いませんか？」と質問した。私はタイ語で上手く答えられなかったが、先生は「人間にとって母という単語は、人間が生まれて初めて発する言葉だからです。人間が生きていくために母という存在に気づき、お腹がすいたり、排泄したら、気づいてもらうために呼ぶ音はできるだけ出し易い音がいいですね。じゃあ、日本語で「母」は何ていいますか？」と簡単な質問に変えてくださった。「口語でママともいいますが、おかあさんと呼びます」とやっと返答できた。先生は、両唇音が使われていないことに驚きながら、「母音を発音しやすい、きれいな響きね」と新たな発見に喜ばれている様子だった。実際にタイ社会では家族の成員の中で「母」の存在は偉大であり、「母」をタイトルとする歌詞や音楽も日本よりも想像以上に多い。こうしたタイ人の着眼点は、母の存在を大切するタイ文化理解を促したエピソードである。

### 仏教国特有の児童心理学講義

タイ言語学以外にも履修した科目は、修辞学、児童文学、児童心理学であった。この他に海に近い大学ならではの体育科目（ウインドサーフィン）も履修した。最も思い出に残っている科目は、児童心理学の講義だった。小柄で可愛い容姿のアレン先生は、フロイト心理学を概説したのち、幼児期や学童期の幼児や児童との接し方に上座仏教の出家信者が修行中に取り組む瞑想実践を採用するようにと指導された。講義時間の半分を使って実際に学生たちが瞑想にチャレンジする時間を設けた日もあった。仏教国ならではの心理学の講義だと肌で感じた。さらに児童心理学の講義に出席するときは、8

階の講義室までエレベーターを使用せずに一歩一歩階段をのぼりながら歩行瞑想をしてくるよ  
うにと勧められ、忠実に守るタイ人学生の健気  
さにも感心した。

学期末の課題はシーラーチャーの街はずれの  
岩山の頂に聳える仏教寺院に1泊2日の瞑想修  
行に参加することが課された。仏教寺院から修  
了証を受け取り、提出することで単位が与えら  
れるという試験内容だった。在家信者と出家信  
者に分かれて宗教実践に取り組むタイの上座仏  
教は、出家信者となれば一日2回しか食事を取  
らない。正午を過ぎると一切食べないのだ。食  
欲の塊でもある20代前半の私は空腹に耐えな  
がら、さらに座禅や歩行瞑想に取り組むこと  
になった。想像以上に試練であったが、忘れら  
れない経験だ。今、振り返ると、大学の外に一歩  
出れば、95%以上の国民が敬虔な仏教徒である  
タイでは、公私ともに宗教実践に取り入れるこ  
とは然程不思議なことではないのかもしれない。

タイ留学経験は、今を生きる私の語学力や異  
文化理解に対する基本姿勢をつくりあげた基礎  
的な土台にもなっている。これから海外へ留学  
される学生には、留学先で遭遇する想定外の出  
来事を乗り越える愉しさと喜びに溢れる生活を  
ぜひ謳歌していただきたい。



2019年撮影 海洋研究所を擁する大学構内の  
一角にある水族館モニュメント



2002年撮影 朝方、托鉢する僧侶に寄進する様子



2003年撮影 大学モニュメント